



広報

たけし

市民の友

第639号 毎月1回発行

2004年(平成16年)

4月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

市の人口と世帯	
* 内は外国人	
2004(平成16)年2月末現在	
総人口	311,202(1,957)
男	150,522(1,009)
女	160,680(948)
世帯数	123,305(1,217)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本庁	89,230
真和志	105,579
首里	58,972
小祿	55,464



市役所の屋上がお花畑に。

**モデル庭園を
どうぞご覧ください**

沖縄都市モノレールの開通を契機に、市では都市景観や環境に配慮した屋上緑化を提唱してきまされた。ゆいレールの車窓に映える緑も徐々に広がっているようです。

3月1日、市役所本庁の屋上に緑化庭園がオープンしました。セミナーでは、庭園づくりに賛同し、資材や労力を無償で提供していただいた施業者のみなさんに、翁長市長から感謝状が贈られました。

記念にブーゲンビリアを定植した市長は「屋上緑化の事例として、市民のみなさんに手軽に採り入れ、楽しめる独自の技術や工法を実際に見ていただき、屋上緑化の普及・促進につながればと思います」と見学を呼びかけました。

入り口にはスロープを設け、車いすの方もスムーズに庭園へ。オープン以来、多くの市民が訪れ、春の日差しをいっぱい受けながら花や野菜にふれ、元気をもらっています。語りものんびり、ゆったり。腰をかがめて香りを楽しむ人。ヨチヨチ歩いて青々とした芝生を気持ちよさそうにさわる小さな手。きょうはお隣の開南小学校3年生のみなさんも見学に来てくれました。

市役所本庁の緑の奥座敷。庭園の看板をくぐったあなたを、風にゆれる葉野菜、色鮮やかなパンジー、緑の芝生、そして青空がやさしくむかえてくれます。

主な紙面

エコフレンド号が発車します 2
パブリックコメント制度を試行 3
小さな力をあつめて 4
夢をかたちにしたい 5
第1回那覇市こころの作業所フェスタ 6
情報PACK 7

市長談 TAIDAN 12



くば ゆきこ
久場 由紀子
(沖縄子育て情報ういず代表)
那覇市生まれ。85年(株)沖縄富士通システムエンジニアリング入社。99年同社を退社し育児に専念。00年沖縄子育て情報サイトういず立ち上げ、沖縄子育て情報ういず1号・2号を出版。なほ女性センター運営委員、那覇市社会福祉協議会評議員、初級産業カウンセラーなど。

翁長雄志市長 公務で子育て中の方と話す機会が多いのですが、驚いたことに、みなさん子育てに自信が無いんですね。4名を育てた私の経験を話し、聞くだけでも、自信を取り戻すことができるようですよ。

久場由紀子さん 私も初めての子育てでは、子どもが泣く原因など、本で答えを探したり、マニュアル育児になっていました。同じようにマニアル育児に走っている人は多いと思います。その原因が孤立した育児にあると思います。夫は仕事で帰りが遅く専業主婦の悩みは、どんどん大きくなっていくのです。

市長 なるほど。ひと言でも話せる相手が必要なのですね。では、久場さんが子育て情報誌「ういず」を編集するなかで、もう少し行政に努力してほしいと思うことはありますか。

久場 たくさんあります(笑)。やはり、認可保育園の待機児童の解消です。無認可に申し込む場合でも、まず認可保育園に申込みをするよう、働きかけています。待機児童数をカウントすることで、常に行政に認識してもらうことが目的です。

市長 私の子もたち全員が認可外だったので、この問題はよく理解しています。27年間の米軍統治下で整備が

親としてしっかり育てたい

遅れた沖縄には、本土の約5倍の認可外保育園があります。だから即急に、公立や認可を増やす予算は作れないので、安謝保育所を民間委託し、節約できた予算を認可外のために使うことができました。

「認可外保育園は戦後処理のひとつ」として国に検討を促しているところです。久場 そこに関連して、幼稚園の午後の保育がないことと、5歳児保育が足りないことです。働く女性を推進する割には、まったく受け入れができていません。

市長 幼稚園についても、本土と比べて沖縄は就園率が高く、児童クラブの必要性と同様に、国に積極的に要請していきたいと思っています。

久場 市の財政が厳しいのはよく分かっていますが、母親として子育ては、しっかりとやっていきたいのです。4月から始まるファミリーサポートセンターのように、NPOも私たち子育て中の者も一緒に行政に良いアイデアを提案していきたいですね。

